

## ルカの福音書 第10章 42節

「どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです。」

時代の声は、あれも必要、これも必要と洪水のようにアピールします。これでよいのか、そのままで済むのか、この先どうすると予期不安を煽り動くことを急かします。それらの声が先行するまま、あまり考えることなく慌ただしく反応している様子も見られます。それこそ、それでよいだろうか、と問いかけたくなります。

様々な声と出来事に揺さぶられる心です。揺さぶられながら、焦りながら、流れの勢いに追いかけられるのではなく、自分の心で追うことが大切です。主体的な受け止めが大事です。そのうち外看板からの声は遠のき、自分なりの関心ごとに向くようになるのではないのでしょうか。そして、自分から外看板を見始めたとき、何が大事か少しは見分けることができるかもしれません。

それでも不十分です。危ういのです。時代の声や看板に右往左往していたのが自分ですから、また、元の木阿弥にもなりかねません。しかし、ここでは、ハッキリ必要なことが一つだけです、と断言しています。心が揺さぶられ、何が必要で、何が不要と自分で考える前に、一つだけの必要を語られたお方に聞くことがすべてです。